

国立天文台周辺の現況⑥ 一防災一

○野川周辺地域は、ハザードマップで浸水予想区域に指定されており、浸水予想区域内の公共施設（羽沢小学校、大沢コミュニティ・センター）は、風水害時の指定避難所から外れています。

○天文台は、広域避難場所に指定されています。

凡例

想定最大規模降雨での予想浸水深

0.1m～0.5m

0.5m～3.0m

3.0m～5.0m

5.0m～

土砂災害警戒区域

土砂災害特別警戒区域

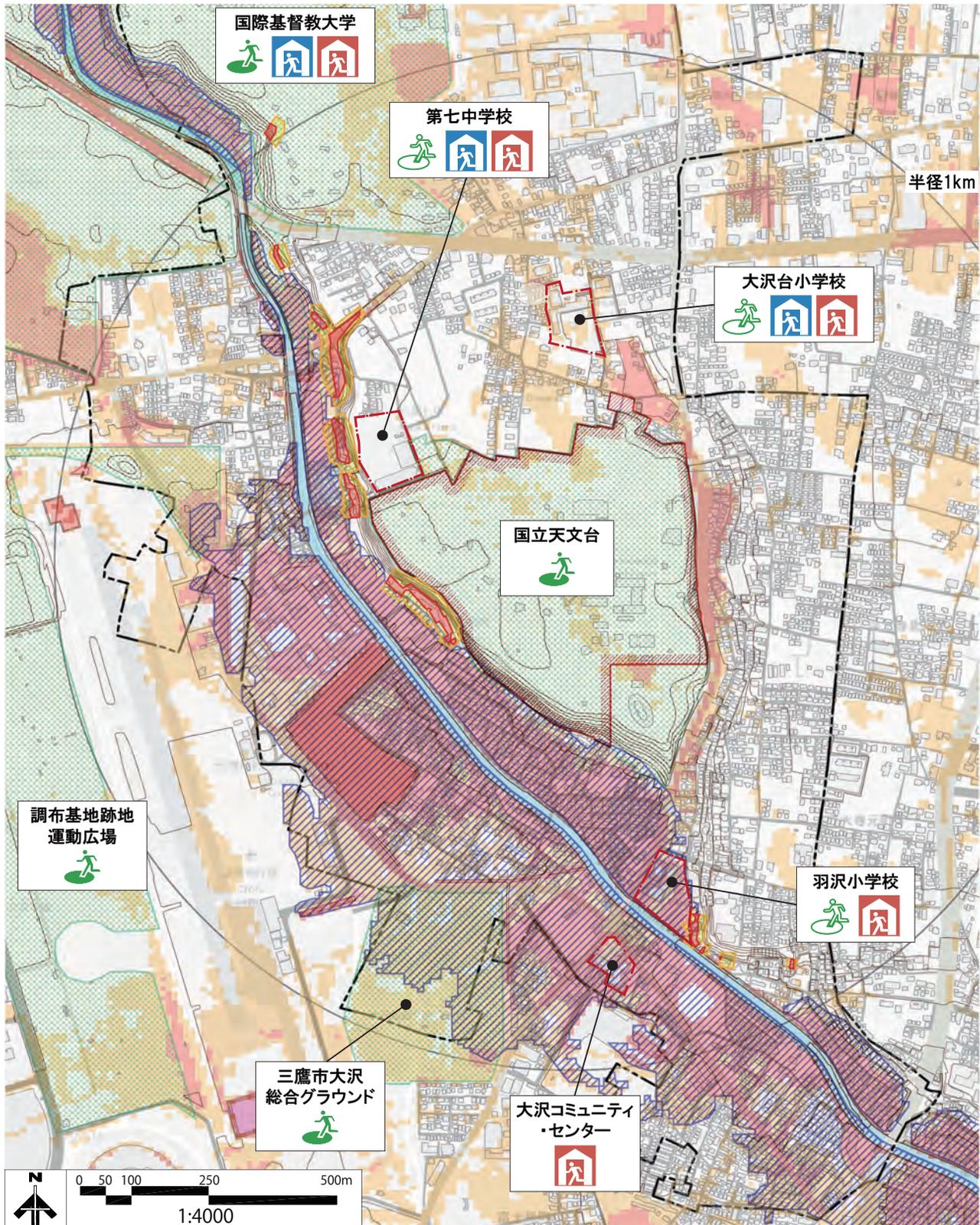
避難所（震災時）

避難所（風水害時）

野川沿いの浸水予想区域

一時避難場所

広域避難場所



国立天文台周辺の 現況写真 と 主な検討課題



国立天文台東側ゾーンの研究施設

画像出典：国立天文台HP



国立天文台敷地内の歴史的構造物

画像出典：国立天文台HP



国立天文台西側ゾーンの緑道



国立天文台北側ゾーンの竹林



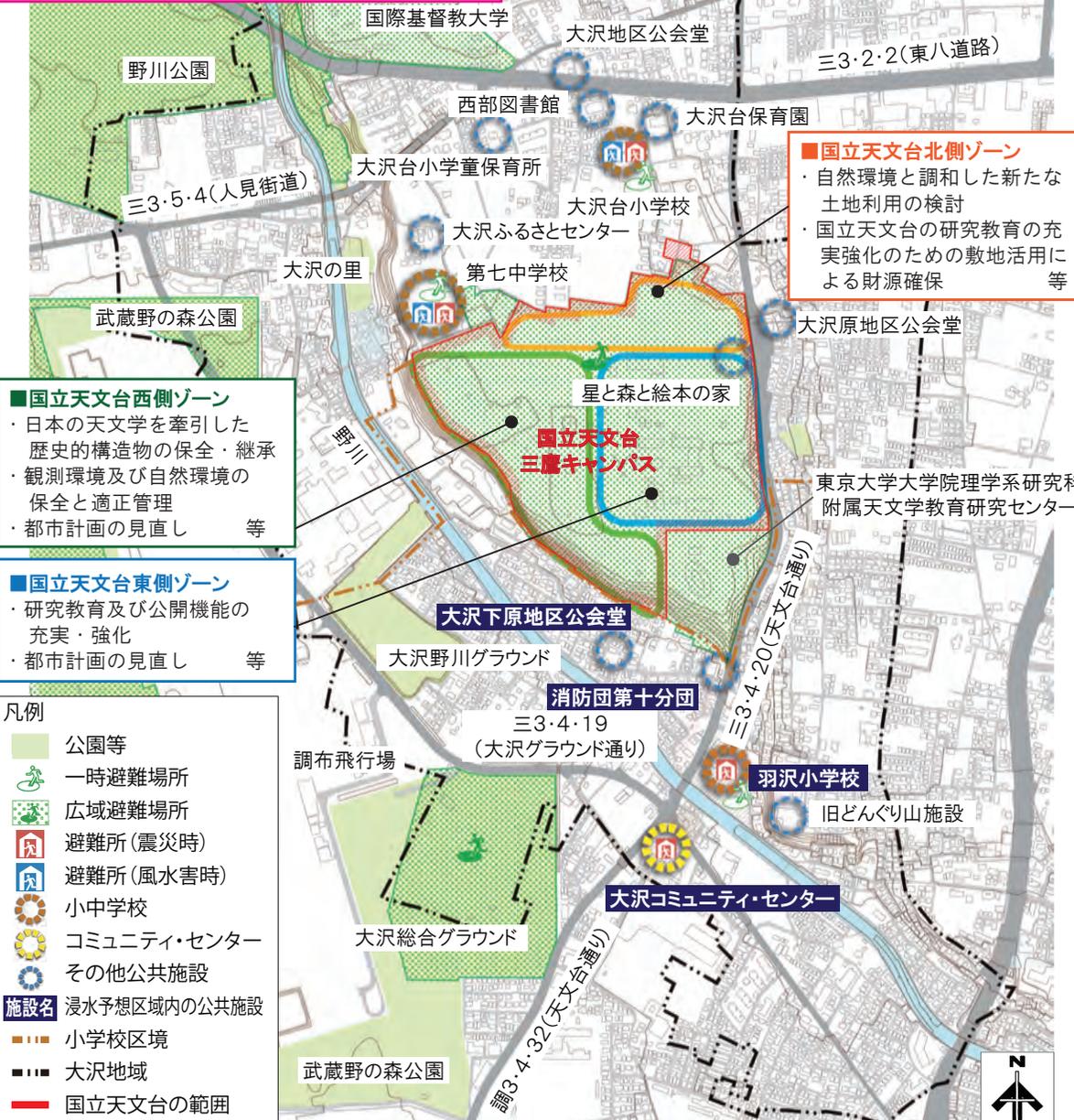
野川



大沢の里

■周辺地域の課題

- ・地域の防災性の向上（浸水予想区域内の公共施設）
- ・商業環境整備
- ・交通ネットワークの再編
- ・地域資源の保全・活用（自然・文化的資源等）等



三3・4・20（天文台通り）



星と森と絵本の家



大沢コミュニティ・センター



羽沢小学校



大沢台小学校



第七中学校

地域団体ヒアリングでの主なご意見①

「国立天文台周辺のまちづくり地域団体ヒアリング（第1回）」を開催しました

令和3年10月に、大沢地域の住民協議会、町会、自治会、学校関係団体の代表者等へのご説明と意見交換の場として、「国立天文台周辺のまちづくり地域団体ヒアリング（第1回）」を以下のとおり設け、実施いたしました。

開催日	令和3年10月13日（水）、14日（木）、23日（土）、27日（水）
開催場所	大沢コミュニティ・センター 他2か所
参加団体	11団体（大沢地域の住民協議会、町会、自治会、学校関係団体等）
参加者数	23人

学校関係団体への個別ヒアリングを実施しました

開催日	令和3年12月16日（木）、17日（金）、23日（木）
参加団体	羽沢小学校、大沢台小学校、第七中学校各PTA役員会、おおさわ学園CS委員会

ヒアリングでの主なご意見

防災・防犯に関すること

- 三鷹市民（野川沿い）の調布市避難所の利用
- 避難所（風水害時）でないことの認知不足（羽沢小・大沢コミュニティ・センター）
- 自家用車を利用した避難所（風水害時）への移動
- 風水害時における垂直避難の取組（団地内）
- 防犯対策の強化（特に夜間・学校周辺など）

商業環境に関すること

- スーパーマーケットの誘致（小学校が移転した場合）
- 多様な診療所の誘致（内科・外科・小児科・耳鼻咽喉科・歯科等）
- 移動スーパーへの要望（巡回増）
- 商業環境充実に向けた都市計画の見直し

自然環境・歴史文化に関すること

- 大沢の良好な環境への評価（湧水・蛍など）
- 天文台の環境（樹木、植物、鳥類、昆虫など）や史跡の調査・配慮

道路・交通に関すること

- コミュニティバス運行ルート of 改善
- 路線バス減便による不便な日常生活
- 狭い道路による通行の不便、消防活動への不安
- 暗く、急な崖線階段の改善（七中西側）

国立天文台北側敷地の新たな土地利用に関すること

■全般

- 50年後の大沢を見据えたまちづくりへの期待
- 天文台北側敷地で市がまちづくりに取り組むことへの評価
- 高台を活かした地域の防災拠点整備

■学校施設

- 浸水予想区域に立地する羽沢小の移転
- 小学校移転時のスクールバス運行
- 大沢台小との一体整備や第七中も含めた小中一貫校整備
- 学童保育所を含めた整備
- 新しい学校のあり方（コンセプト、安全対策、支援学級など）
- 小学校移転時のバス停設置、駐車場整備
- 新しい通学路等の確保（天文台敷地内など）

■コミュニティ施設

- コミュニティ・センター現敷地の継続利用
- コミュニティ・センターの分散型整備（本館・分館）
- 学校との共同利用（プール・体育館など）

■その他の施設等

- 施設の複合化や新しいモデル整備への期待
- 駐車場を備えた市政窓口の整備
- 図書館・児童館・派出所などの整備

■公園や広場

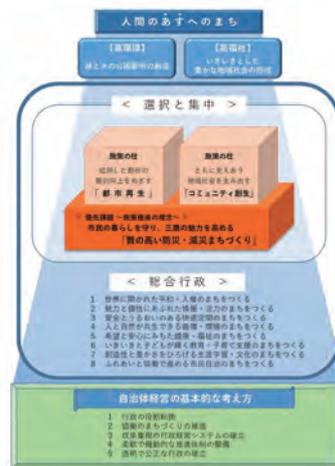
- 子どもが自由に使える広場の整備
- ボール遊びができる公園の整備

三鷹市の主な上位計画・関連計画

■第4次三鷹市基本計画 (令和2(2020)年3月)

- 「質の高い防災・減災まちづくり」を優先課題
- 成熟した都市の質的向上をめざす「都市再生」、ともに支え合う地域社会を生み出す「コミュニティ創生」を施策の柱として取り組む

など



■土地利用総合計画 2022 (令和2(2020)年3月)

- 大沢住区は自然環境と防災などを考慮した保全・整備を図る
- 国立天文台エリアは「文化・教育・健康の拠点」として、緑豊かな環境が保たれ、市民に親しまれるよう土地利用の誘導に努める

など

大沢住区土地利用の基本図



■防災都市づくり方針 (令和3(2021)年3月)

- 浸水予想区域内の避難所の移転検討 など

■新都市再生ビジョン(仮称) (今後策定予定)

- 防災都市づくりの推進、安全安心で快適に利用できる施設の確保 など

防災都市づくり方針 各施策の取組方針



■三鷹市教育ビジョン 2022 (令和2(2020)年3月)

- 学校を地域の拠点であるプラットフォームとして、地域の人財が交流・循環していく、学校を核としたスクール・コミュニティに取り組む

など

目指す子ども像

- ・自分を愛し、他人を愛し、三鷹を愛する人
- ・確かな学力と健康でたくましい心身を備え、自ら学び続ける人
- ・規範意識を備え、社会の一員として自ら責任ある行動がとれる人
- ・自分の考えをもち、他者と豊かなコミュニケーションがとれる人
- ・国際的な視野とチャレンジする心をもち、積極的に社会や地域に貢献できる人

基本方針策定に向けた市の基本的な考え方（案）

令和4年3月の「土地利用基本方針」の策定に先立ち、市の基本的な考え方（案）をとりまとめ、令和3年12月の三鷹市議会へ報告をいたしました。

■国立天文台と三鷹市の相互協力に関する協定（令和2（2020）年12月3日締結）

これまでの協定（平成21（2009）年2月4日締結）

- 天文台が保有する高度な学術的知識・資源の市民への普及・活用に関すること
- 次代の人財を育むための、宇宙、自然、科学、文化などに関すること

この度の協定締結に伴い、新たに以下の内容を追加しました

- 天文台周辺地域の魅力あるまちづくりに関すること
- 天文台敷地の土地利用計画の見直しに関すること

■主な検討課題（○大沢地域 ●国立天文台）

- 地域防災性の向上（浸水予想区域の公共施設）
- 不足する商業環境の整備
- 天文台の研究教育機能の充実強化のための財源確保と都市計画の見直し など

■三鷹市新都市再生ビジョン（仮称）策定に向けた基本的な考え方（4つの視点）

- ①防災都市づくりの推進
- ②安全安心で快適に利用できる施設の確保
- ③社会状況の変化等への対応
- ④維持保全経費の縮減と平準化

■三鷹市教育ビジョン2022（第2次改定）

- 地域をつなぐ拠点となる学校づくりを進め、学校を核としたスクール・コミュニティの創造を目指す など



■まちづくりの目標

天文台百年の森を次世代につなぐ新たな地域づくり
～大沢地域・天文台・三鷹市との協働のまちづくり～

■3本の柱

質の高い防災・減災のまちづくり

学校を核とした
スクール・コミュニティの創造

日常生活圏を基盤とした
商職住近接のまちづくり

■基本的な視点

防災・減災

自然環境・
歴史文化

教育・研究
・子育て

コミュニティ

日常生活
新たなライフスタイル

国立天文台の課題解決に向けた取組

①天文台敷地の有効活用による収入の確保が期待できます

②研究教育機能強化に向けた都市計画の見直しに取り組みます

大沢地域の課題解決に向けた取組

①新たな防災拠点の創出とスクール・コミュニティを基盤とした地域の拠点形成に取り組みます

②天文台の豊かな森にふれ天文台と連携した特色のある学びと安全安心で快適な地域に開かれた新小学校を検討します
(羽沢小学校の移転に向けた検討)

③跡地利用の検討では商業施設の誘致による買物不便環境の解消を目指します
(羽沢小学校が移転した場合)

今後の検討課題

○浸水予想区域内に立地する大沢コミュニティ・センターや今後更新期を迎える大沢台小学校等の公共施設のあり方については、市関連計画との整合性を図りつつ、地域の皆さまのご意見をお聴きしながら検討します。

※この内容は今後の検討を進める中で変更となる場合があります。

土地利用の基本的な考え方とゾーニングの考え方

土地利用の基本的な考え方

天文台百年の森を 次世代につなぐ 新たな地域づくり

～大沢地域・天文台・三鷹市との
協働のまちづくり～

①防災・減災

国立天文台敷地を活用した風水害等多様な災害に強く、質の高い防災・減災のまちづくり

②自然環境・歴史文化

国立天文台や地域の自然環境と歴史文化を活かしたまちづくり

③教育・研究・子育て

地域の人財が交流・循環する学校を核としたスクール・コミュニティの創造

④コミュニティ

地域住民がつながり、支えあい、多様な活動が繰り広げられるまちづくり

⑤日常生活・新たなライフスタイル

買物不便環境の解消や新たなライフスタイルを実現できるまちづくり



ゾーニングの考え方

A. 新たな土地利用検討ゾーン

- ・ 浸水予想区域内の小学校の移転による新たな防災拠点の創出
- ・ 緑地を活かし、地域をつなぐ防災・教育・コミュニティの拠点形成の検討

C. 歴史的建造物の保全・継承と観測環境及び自然環境保全ゾーン

- ・ 歴史的建造物等の観光資源を活用しながら、豊かな自然環境を保全

B. 天文台研究教育・公開機能の強化ゾーン

- ・ 国立天文台が保有する高度な学術的知識・資源の市民への普及・活用を図りながら、次代の人財を育む

D. 地域の共通課題検討ゾーン

- ・ 日常生活を支援する商業施設等の機能誘導及び都市計画の見直し等を検討
- ・ スクールバスの運行等を含めた地域を結ぶ移動交通のあり方を検討

〈参考〉 土地利用のゾーニングイメージの想定

以下は、現段階で考えられるゾーニングイメージの参考例であり、
今後も地域の皆さまのご意見をお聴きしながら検討を進めます。

参考図

